

令和4年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	附属特別支援学校における研究の成果を全国へ発信する取組
事業実施代表者名	校長 青山 眞二
実施附属学校名	北海道教育大学附属特別支援学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>本事業では、本校で行う研究を様々な方法で道内及び全国へ発信することを目的としている。</p> <p>事業の内容として、</p> <p>①公開研究会の開催 ②各種学会での発表 ③研究成果物の作成 ④他校との研究交流 ⑤その他（HP等） としている。</p> <p>①については、7月に公開研究協議会を参集型・オンラインの方法で実施した。新型コロナウイルス感染症の感染対策により、講師が来道することはできなかったが、「新学習指導要領を踏まえた知的障がい教育の展開—社会に開かれた教育課程の実現と地域生活の充実の視点から—」の演題にて、東京都立久我山青光学園の統括校長である丹野哲也氏の基調講演会を行った。新型コロナウイルス感染症の感染対策のため参加を見合わせた方のために、講演会、公開授業、研究協議をオンデマンドで配信した。</p> <p>②については、北海道特別支援教育研究協議会（星置養護学校会場）の部会にて、本校のカリキュラム・マネジメントの取組について提言を行った。</p> <p>③については、「教材教具で授業が変わる」（仮）を、全教職員で執筆中である。発行は、令和6年2月末の予定である。</p> <p>④については、ふじのめ学級教諭、北海道紋別養護学校、千歳市立北進小学校教諭の視察研修の中で、授業交流及び研究交流を行った。また、地域の特別支援学校及び特別支援学級教員を対象とした「現職教員研修」を12月と1月の2回行い、本校の自立活動の授業と参加者の授業を交流した。</p> <p>⑤については、研究についての資料及び授業動画、基調講演動画を学校ホームページに掲載した。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>① については、新型コロナウイルス感染症対策で、北海道内の特別支援学校、道南の小・中学校に限定した案内となった。また、本校内での新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、直前にオンラインでの実施を検討することとなった。次年度は、全国に発信していくことを前提に、計画当初から参集型とオンラインの参加方法を設定していく必要がある。</p> <p>② については、北海道内の特別支援学校の教員が多く参加・視聴する場において、研究の発信を行うことができた。次年度は、北海道特別支援教育学会が函館で開催されるため、この場を活用した本校の研究や実践の発信を行いたい。また、全国の学会にも積極的に参加し、発信していきたい。</p> <p>③ については、継続して執筆作業を行う。また、研究紀要の発行を進める。</p> <p>④ については、一日限りの授業交流や研究交流ではなく、お互いが継続して授業改善や研究について検討できる研修方法を探る必要がある。</p> <p>⑤ については、今後も、ホームページでの発信を進めていく。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>全国への発信として、現在取り組んでいる書籍の執筆を進める。また、本年度から3年計画で、児童生徒の自己実現に向けて、子どもの願いを大切に、実態をみとる過程を大事にした授業づくりについての研究を進めている。これらの授業づくりの手続きも合わせた研究成果を、公開研究協議会、各種学会、研究紀要等を活用して全国の特別支援学校や特別支援学級へ発信をしていく。</p> <p>また、地域の教職員に向けた「現職員研修」については、内容や方法を見直し実施していく。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>函館新聞に公開研究協議会について掲載された。その他、本校ホームページ上に、研究活動において研究の外部発表への取り組みと、入試情報にける出願状況、活動の様子等において随時更新掲載している。</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円 8 0	千円 7 9	全道研究大会参加等 3 件
謝 金			
備 品 費	1 8 4	1 8 5	研究等で使用する機器 (代金一部)
消耗品費			
そ の 他			